

センチネル 32J と SPARC Enterprise T5220 との 接続検証結果報告書

株式会社 昌新
技術部

1. 作業実施概要

thinklogical 社(旧 Logical Solutions 社)のシリアルコンソールサーバー『センチネル 32J』と SPARC Enterprise T5220 (Solaris 10 OS Release 5.10)との接続・動作確認を実施致しました。

1) 被検証装置

品名	型名	ファームウェア
センチネル 32J	SCS-003200J	3.2-61J



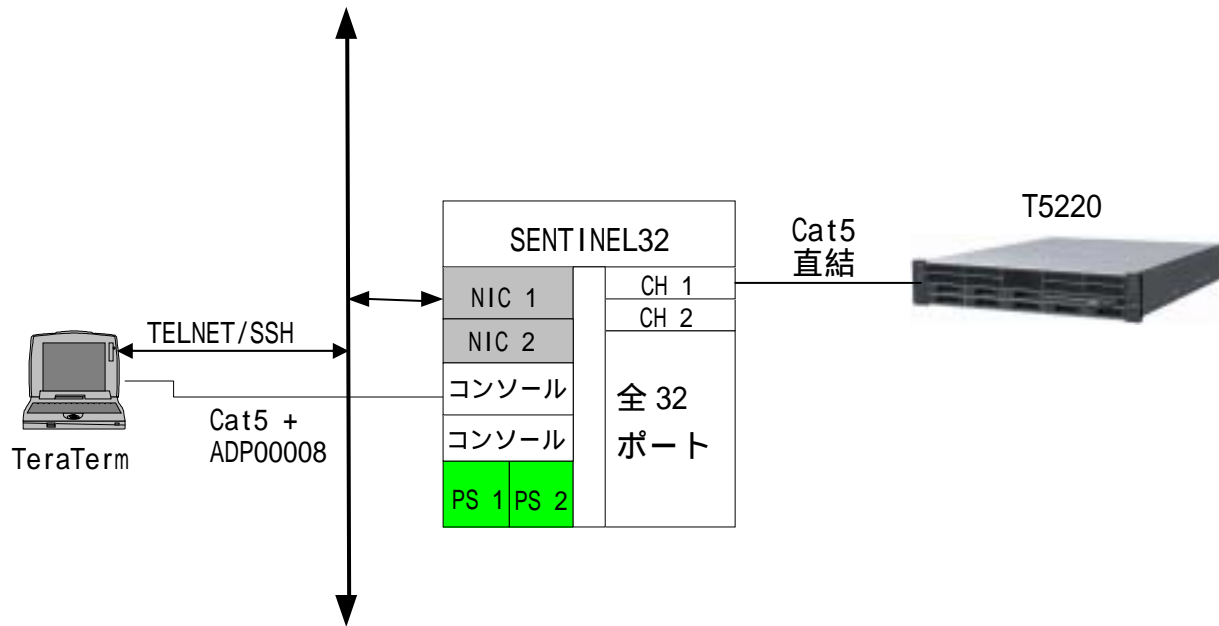
1. 作業期間

2008年5月20日 14:00 ~ 15:30

2. 作業場所

Platform Solution Center 30F マシンルーム

3. 実施システム構成 (概要)



1) SPARC Enterprise T5220

(Solaris 10 OS Release 5.10) NIC : オンボード

2) センチネル 32J (M/N: SCS-003200J) ファームウェア V 3.2-6IJ

3) スイッチングハブ 100/1000BASE-T インタフェース

4. 検証項目

- 1) TeraTerm を実行する Windows PC からシリアル , telnet および SSH によりコンソールサーバー『センチネル 32J』に接続できること
- 2) SPARC Enterprise T5220 の管理コンソールと Solaris のシリアルコンソール操作を支障無く行えること
- 3) 『センチネル 32J』の電源を切った時に T5220 の Solaris が停止しないこと
- 4) SPARC Enterprise T5220 がパニック (意図的にクラッシュを発生させて対応) を起こしても , センチネル 32J に影響がないこと

4. 検証結果

上記検証項目において , SPARC Enterprise T5220/ Solaris 10 Release 5.10 コンソールサーバー『センチネル 32J』からコンソール操作を実施できることを確認いたしました。

- 1) SPARC Enterprise T5220 との接続は、管理コンソール「SER MGT」とセンチネル デイスポートを Cat5 ストレートケーブルで接続します。なお、シリアルポートパラメータは、9600bps、8bit、パリティなし、1Stop、フロー制御なしとなっています。
- 2) ALOM CMT とコンソールの切り替えは、ALOM のコマンドプロンプト: ->から
-> **start /SP/console**
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? **y**
を入力し console に切り替えて、ALOM のコマンドプロンプトに戻るには、
#> #. を入力することによりおこないました。
- 3) 『センチネル 32J』の電源を切った時、およびに接続ケーブルを抜き差しした時に、T5220 の Solaris に影響を与えないことを確認しました。
- 4) T5220 を Halt・再起動させた時、『センチネル 32J』動作に影響の無いことを確認しました。

5. お問い合わせ先

株式会社昌新

情報システム営業部 (担当 : 浅利)

TEL : 03-3270-5926

E-mail: IS@shoshin.co.jp

URL: <http://www.shoshin.co.jp/c/lsci/scs/>

以上